

# 令和 6 年度自己評価結果公表シート

上田女子短期大学附属幼稚園

## 1、本園の教育目標

「生き生きしている子ども」「健康な子ども」「心の豊かな子ども」を教育目標に掲げている。

## 2、本年度、重点的に取り組む目標

- ア. やまほいくの充実
- イ. 短大との連携強化
- ウ. インクルーシブ教育の推進

## 3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	取組状況
ア. やまほいくの 充実	<b>B</b>	ESD 教育（持続可能な開発のための教育）を自然保育と編みあわせ、幼稚園としてできる園児の豊かな自然体験について議論を深めながら、研修等を受講して実践力を高め、おやまの参観日を実施することができた。また、園での取り組みを各家庭や地域に発信していくことで、保護者や卒園児あるいは地域との連携づくりを努めた。やまんばの森づくりプロジェクトについては、在園児家庭への発信力が浅かった。今後は通信づくりなどによって理解を深めたい。
イ. 短大との連携 強化	<b>B</b>	短大教員と連携した授業協力を積極的に行い、学生にとっても園児にとってもより深い学びと体験の場となる実践を行うことができた。また、授業だけでなく学生や園児が互いの存在を意識し、主体的にかかわる場面も見られるようになってきた。また短大教員の連携講座を園児保護者や地域へ公開し、短大の附属幼稚園としての特色を更に発信することができた。
イ. インクルーシブ 教育の推進	<b>A</b>	令和 5 年度より研究実践している「保育環境を活かしたインクルーシブ教育」について、8月に石川県で行われた「令和 6 年度東海北陸地区私立幼稚園教育研究石川大会」において分科会発表を行うことができた。本園の取り組みを発表することで、専門家の助言や現場の様々な意見を聞き、その後の研究や実践に活かすことができた。また、具体的な事例を整理し、教員間での情報共有や考察を深めることができた。

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

**B**

教職員が取り組むべき課題について理解することができた。

また、それぞれが自己評価をし、新たな課題について見出し、今後の取り組みや本園の教育方針を明らかにすることができた。

## 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
ア.やまほいくの充実	園児が日常では体験しがたい自然環境の原体験を大切に捉え、その意味や効果について研究を深める。また、子どもたちが「自然環境を活かした暮らしの営み」に興味を持ち、日常の暮らしでは体験できないことに挑戦する機会を作る。自然保育や環境保育・インクルーシブ保育の観点から、園庭や裏山の環境を見直す。
イ.短大との連携強化	学生が、知識としてインプットした学びや疑問を、実際に知ったり試したりできる「アウトプットの場」として機能する。学生にとって来園しやすい雰囲気づくりや態勢づくりを行う。デザインキャンプ上田をモデルとし、短大と幼稚園のコミュニティを編み合わせた新たなコミュニティを創り出す。
ウ.保護者支援	保護者が集うきっかけとなる場（サポート活動・サークル活動）を設定し、保護者同士のコミュニティが作りやすい環境を園が提供する。また、保護者向けに園を開放し、普段の園の様子を見ていつでも気軽に教員に相談できる体制づくりをする。

## 6. 学校関係者の評価

1月26日に行われた学校関係者評価委員会において、委員からは概ね良好な運営をされているという意見をいただくことができた。

### 3. 4の評価結果基準

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である